

03_主要国・国際機関等のニュース記事一覧(2025年2月11日～2025年3月12日)

対象期間				2025年2月11日～2025年3月12日																			
注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別										リンク1	リンク2	リンク3	リンク4	
									当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・再編	感染症状況					
									当該機関	支援対象	重点感染症	その他疾患	外部から当該機関へ										
★	1	2025/2/11	NIH	デング熱、AV-1、モノクローナル抗体、治療薬、臨床試験	NIH-funded clinical trial will evaluate new dengue therapeutic	NIHの助成により、AbViro社が開発したヒトモノクローナル抗体AV-1を用いたデング熱治療薬の第2相臨床試験が実施される	NIHは、NIAIDの助成により、モノクローナル抗体を用いたデング熱治療薬の第2相臨床試験が実施されることを発表した。AbViro社が開発したヒトモノクローナル抗体AV-1は、NIAIDの助成を受けて実施した第1相臨床試験においてヒトへの安全性が示された。今回その結果を受け第2相臨床試験では、米国内の2大学(ジョンズ・ホプキンス大学、バーモント大学)において、少なくとも84人の健康な成人被験者を対象に接種され、少なくとも155日間健康状態をモニタリングする。この臨床試験においてAV-1の有望な結果が示されれば、デング熱治療薬としての安全性と有効性についてさらに研究が進められる。	デング熱			●	●	●							リンク			
	2	2025/2/19	UNICEF	東部・南部アフリカ、Mpox、コレラ、ウイルス性出血熱	Multiple disease outbreaks heighten public health emergencies for children across Eastern and Southern Africa	UNICEFが、東部・南部アフリカ地域の21カ国のうち17カ国でMpox、コレラ、ウイルス性出血熱等の感染症アウトブレイクが発生していることを指摘	UNICEFは、コレラ、Mpox、そして最近ではウイルス性出血熱の発生を含む公衆衛生上の緊急事態が、東部・南部アフリカの数百万人の子どもの安全と健康に深刻な脅威をもたらしている」と発表した。それによれば、地域内の21カ国のうち17カ国が複数の公衆衛生上の緊急事態に直面している。その多くは、ポリオ、麻疹、ジフテリア等のワクチンにより予防可能な疾患である。さらに、タンザニアではマールブルグ病、ウガンダではエボラ出血熱のアウトブレイクが発生している。これに加えて、Mpoxもブルンジとウガンダを中心に依然として問題となっており、国境を越えて感染が広がる恐れがある。コレラは、アンゴラ、ブルンジ、南スーダンなど12カ国で流行している。子供たちは、免疫システムが発達途上であり、これらの病気の身体的影響に対して本質的に脆弱である。このような状況の中でUNICEFは当該地域の子供に対する支援を続けている。	Mpox、コレラ、マールブルグ病、その他										●	リンク				
	3	2025/2/20	CEPI	新規のワクチン製造技術、カフェポッド、さなぎ、100日ミッション	Turning up the heat on vaccine technology Take coffee pods for example.	100日ミッションを達成するため、CEPIはカフェポッドや蛾に関連する技術など、様々なアイデアを用いたワクチン製造技術の研究開発を推進する	CEPIは、100日ミッションを達成するため、様々な新規のワクチン製造技術の研究開発を進めている。現在、CEPIの支援を受けた約15件のプロジェクトがPOC取得を目指している。オーストラリアのVaxxas社は、多数の微小突起を備えた高密度のマイクロアレイ・パッチを使って、高温でも安定な針なしワクチンの開発を進めている。パッチに使われるカプセルは、カフェポッドに似ている。この方法が実用化されれば、パッチを皮膚に押し当ててmRNAワクチンを注入することができる。英国のaVaxziPen社は、ペン型のアプリケーションを用いて、針もシリンジも使用しないワクチン接種技術の開発を進めている。この技術はmRNAワクチンだけでなく、従来のタンパク質ワクチンにも応用できる。スペインのAlgenex社は、蛾のサナギをバイオリアクターとして利用し、ワクチン抗原を大量かつ迅速に製造する技術を開発している。ドイツのLenioBio社は、植物細胞のタンパク質合成系を用いた抗原タンパク質の製造法を開発している。このように一見ワクチンとは無関係に思える技術から、100日ミッションの達成につながる技術が生まれる可能性がある。	感染症全般	●		●	●	●	●					リンク				
★	4	2025/2/21	IVI	バイオレポジトリ、ソウル、将来的なパンデミック	IVI Biorepository opens as a global center for biological resources to advance infectious disease preparedness	IVIが、感染症に対するワクチン、治療薬、診断薬等の研究開発に利用するため、400万件の試料を保存可能な最新のバイオレポジトリをソウルに開設	2025年2月21日、IVIは感染症に対するワクチン、治療薬、診断薬の研究開発を促進するため、新たなバイオレポジトリを開設した。バイオレポジトリはソウルのIVI本部に隣接しており、病原体やヒト由来試料などを保管するための超低温フリーザーや液体窒素タンクを備えている。バイオレポジトリは、400万件の試料を保管することが可能であり、ウイルス、細菌、真菌といった病原体や、血清、血漿などの生体試料を収集し、ワクチン、治療薬、診断薬の研究開発に活用する。これにより、IVIとそのパートナーは世界的な健康危機に迅速に対応することが可能になる。また、重要な生物資源の確実な管理と研究を推進することにより、感染症に関する国際協力の強化が期待される。	感染症全般	●		●		●	●			●	リンク					
★	5	2025/2/26	NIH	ワクチン、アジュバント、研究開発	Study the Mechanisms of Combination Adjuvants in Vaccines	NIHが、ワクチン設計の改善を目指して、混合アジュバントの組合せが免疫機構に与える影響を研究するグラント"Molecular Mechanisms of Combination Adjuvants (MMCA)"の公募を開始	NIHは、ワクチン中のアジュバントの組合せが免疫機構に与えるメカニズムを研究するためのグラント"Molecular Mechanisms of Combination Adjuvants (MMCA)"の公募を開始した。このグラントは、複数のアジュバントの組合せが免疫応答機構に与える影響を解明することにより、長期的な視野からワクチンの設計を改善することを目的とする。具体的な研究テーマとしては、複数のアジュバントの組合せによる抗体産生、アビディティ(抗体の結合力)、抗体機能への影響、CD4細胞・CD8細胞の活性化などが対象となる。1種類のアジュバントまたはアジュバント機能が実証されていない化合物の研究は対象外となる。予算は年間の直接経費50万ドル未満、実施期間は最大5年間となっている。申請期限は2025年6月10日で、2026年に4～6件が採択される。	感染症全般		●	●	●	●	●				リンク					
	6	2025/2/27	WHO	国際保健規則、IHR、緊急委員会、公衆衛生上の緊急事態、Mpox、暫定勧告	Third meeting of the International Health Regulations (2005) Emergency Committee regarding the upsurge of mpox 2024 – Temporary recommendations	WHOが国際保健規則にもとづく緊急委員会を開催し、Mpoxは依然として国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態であると結論し、これまでの取組みを基本的に踏襲した内容で暫定勧告を改定することを決定	2月25日、WHOは国際保健規則(2005)にもとづきMpoxの急増に関する緊急委員会を開催した。会議の結果、Mpoxは依然として国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態であると結論された。Mpoxの感染が見られる締約国に適用される暫定勧告(Temporary recommendations)については、これまでの取組みを基本的に踏襲する形で2024年11月27日の暫定勧告を改定した。暫定勧告の主な項目は、緊急時の調整、共同サーベイランス、安全で拡張可能な臨床ケア、国際的な運輸、ワクチン接種、地域社会の保護、ガバナンスと資金調達、研究上のギャップへの対応、暫定勧告の実施に関する報告となっている。	Mpox	●					●			リンク						

		7	2025/2/27	CEPI	将来的なパンデミック、Disease X プログラム、ウイルスファミリー・アプローチ	The viral most wanted, Getting to know humanity's greatest threats	Disease Xによるパンデミックに備えるため、CEPIがWHO等と連携しながら、人類の脅威となり得るウイルスに対してウイルス・ファミリー・アプローチによるワクチン研究を推進	CEPIは、WHOのPathogen Family Framework等の関連プロジェクトと連携しながら、将来のパンデミックに備えるため、Disease X プログラムを進めている。これまでの研究により、人類の脅威となる最重要ウイルスは特定のウイルス・ファミリー(科)に属するもので、その数は約25のファミリー(科)に上る。これらのファミリーに属するウイルスについては、既に安全で効果的なワクチンが開発されているものもあるが、有効なワクチンや治療薬がまだ存在しないものもある。パラミックスウイルス科には、感染力の強い麻疹ウイルスと致死率の高いニパウイルスが含まれており、ニパウイルスに対するワクチン開発の知見は麻疹のワクチン開発に応用できる。SARS、MERS等のコロナウイルスの研究もCOVID-19ワクチンの開発に大いに貢献した。ウイルス・ファミリー・アプローチによる研究開発を進めることにより、新たなワクチン開発の促進が期待される。	感染症全般	●		●		●	●						リンク				
★		8	2025/3/4	HERA	公募、インフルエンザ、Mpox、ワクチン、薬剤耐性、抗菌薬感受性試験、EU4Healthプログラム	Upcoming EU4Health calls for tenders: advancing influenza and mpox vaccines, and antimicrobial susceptibility testing	HERAが、EU4Healthプログラムのもとで実施される3件の研究開発プロジェクト(次世代インフルエンザワクチン、迅速なpoint-of-careの抗菌薬感受性試験、Mpoxワクチンへのアクセスと普及の加速化)の公募予告を公表	HERAは、EU4Healthプログラムのもとで実施される3件の研究開発プロジェクトの公募を予告した。公募は欧州保健デジタル庁(European Health and Digital Executive Agency: HaDEA)によって行なわれ、①次世代インフルエンザワクチン、②薬剤耐性(AMR)に対処するための迅速なpoint-of-careの抗菌薬感受性試験機器、③Mpoxワクチンへのアクセスと普及の加速化の3テーマが対象となる。①の次世代インフルエンザワクチンの研究開発では、迅速なスケールアップが可能なプラットフォームを開発するほか、新たな投与経路によるワクチンの研究開発などを対象とする。②の抗菌薬感受性試験機器については、1時間以内に結果が判明し、理想的には病原体も同定可能な技術開発などが対象となる。③のMpoxワクチン関連では、MVA-BNワクチンによる免疫誘導についての科学的なエビデンス蓄積のための研究などを進める。予算案は4900万ユーロで、公募は2025年4月に公開される予定である。	インフルエンザ、Mpox、薬剤耐性菌				●	●	●	●					リンク				
		9	2025/3/7	CEPI	インフルエンザ、H5N1、警告、将来的なパンデミック	The world should prepare now for a potential H5N1 flu pandemic, experts warn CEPI	CEPIのパンデミック担当者を含む感染症の専門家が、鳥インフルエンザウイルスH5N1によるパンデミックに備える必要性について警告する記事をScience誌に発表	CEPIのDr. Nicole Lurie (準備・対応担当エグゼクティブ・ディレクター)は、感染症の研究者らと共同で、鳥インフルエンザウイルスH5N1によるパンデミックに備える必要性について警告する記事をScience誌に投稿した。2024年4月以来、米国で約70人がH5N1に感染し、1人が死亡している。H5N1は、2022年に米国の家禽で感染が流行して以来、現在ほぼすべての州でニワトリ、七面鳥などに感染が広がっている。ウシなどの家畜についても全米の17州で感染が確認されているほか、世界各地でアザラシ、ネズミ、ヤギ、イネコといった哺乳類に感染している。ウイルスの拡大により、多くの科学者が、H5N1が変異し、より深刻なヒトへの感染を引き起こすリスクが高まっていると警告している。このようなH5N1の状況から専門家らは、H5N1のヒトへの感染拡大に備え、着手すべき3つの重要な取り組みとして、①保健当局による産業界、政府、規制当局、科学界が関与するプログラム確立による、迅速なパンデミック・インフルエンザ・ワクチン、検査、治療法の開発、②誤った情報やワクチンに対する不安に対処するための包括的な広報プログラム、③各国政府によるパンデミック対応計画策定と透明性のあるストレステストの実施を挙げている。	インフルエンザ	●											リンク				
★		10	2025/3/10	CEPI	長崎大学、ナノボール、mRNAワクチン、重症熱性血小板減少症候群、SFTS、将来的なパンデミック、100日ミッション	Nagasaki University's 'Nanoball' technology could help defeat the next Disease X CEPI	長崎大学が実施するナノボール技術を用いたmRNAワクチン製造プラットフォームの研究開発に対して、CEPIが最大500万米ドルを拠出	CEPIは、長崎大学が実施するナノボール技術を用いたmRNAワクチンの研究開発に最大500万米ドルを拠出することを発表した。これまでのmRNAワクチンは、mRNAの保護を目的に脂質ナノ粒子(LNP)で包んでいたため、超低温で保存する必要があった。ナノボール技術は、LNPの代わりに、負電荷粒子を用いるもので、ワクチンを超低温で保存する必要がなくなることから、ワクチンへのアクセスが改善される。長崎大学はNEC Oncoimmunity社から支援を受け、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に対するAIを活用したナノボールmRNAワクチンを開発する。この方法が成功すれば、Disease Xを含む将来的な感染症に対しても迅速に対応が可能となり、100日ミッションの達成にも貢献すると期待される。また、この技術革新は、凍結乾燥させて冷蔵庫や室温での長期間保存が可能であり、厳しいコールドチェーンが不要であることから、低中所得国におけるワクチンへのアクセス拡大の可能性が開けることになる。	その他		●		●	●		●					リンク				
★		11	2025/3/12	NIH	Mpox、クレードⅡ、tecovirimat、治験	Tecovirimat is safe but ineffective as treatment for clade II mpox	NIHの助成を受けて行なわれた国際共同治験の結果、tecovirimatは安全であるが、MpoxクレードⅡの治療には効果がないと結論づけられた	NIHとカリフォルニア大学サンディエゴ校の研究者は、3月11、12日にサンフランシスコで開催されたレトロウイルスおよび日和見感染症会議(CROI)において、NIHの助成を受けて行なわれたtecovirimat(TPOXX)の国際共同治験の詳細な結果について報告した。それによれば、tecovirimatは人体に安全であるが、tecovirimatを単独で投与した場合、MpoxクレードⅡの病変の臨床的治癒までの時間短縮や疼痛を改善する効果はないと評価された。今回の治験(Study of Tecovirimat for Mpox: STOMP)は2022年9月から開始されたが、tecovirimatに効果がないとされた中間結果報告以降、被験者の登録を中止した。本研究結果はMpox治療への指針を与えるものであるが、Mpoxの進行と回復に影響を与える因子については引き続き研究を行なう必要がある。治験の詳細な結果は今後学術誌に発表される予定。	Mpox			●			●						リンク	リンク			